

令和6年11月21日(木)

資料「2024年度(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部における
6人制ルールの取り扱いについて〔確定版〕」の補足説明

令和6年5月18日(土)に、(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部常任委員会が開催され、今年度の審判規則委員会の基本方針とルールの取り扱いが承認されました。

〔変更点2 【4】 チームリーダーに関する事項〕

中体連でも同様に扱う。

2 中体連においても、監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。その場合、監督の言動が選手に与える影響を考え、部活動における適切な指導が行われるよう、レフェリーは、十分に注意を払う必要がある。ラリー中やラリー後に、監督における、選手への不適切な言動や、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。また、ラインジャッジの視界を遮っていたり、ラインジャッジの判定に影響を与えるような位置(近すぎてラインジャッジが威圧感を感じる…など)にいたりする場合は、適宜、レフェリーが、監督に指導する。

- これまで、中体連の大会では、監督はラリー中、ベンチに座っていなければなりませんでしたが、今後は、一般と同様に、立ちながら(歩きながら)指示を出すことができるようになります。
- ただし、フリーゾーンで座り込むなど、プレーの妨げになるような行為のないように注意してください。
- フリーゾーン内であっても、ラインジャッジの判定の妨げになるような位置(例えばL2の右側に留まることはできません。また、監督とラインジャッジの距離が近くなることから、ライン判定(特にL2とL3)に対して威圧的な言動が出る可能性があります。このような事象をレフェリーが確認した場合は、その程度に応じて、指導を与えたり、罰則を適用したりしてください。